

第23回 経営協議会議事要録

日時 平成20年3月19日(水) 13時30分～14時30分
場所 事務局第2会議室
出席者 宮田亮平学長、堀江振一郎理事、玉井賢二理事、
六角鬼丈美術学部長、川井 學音楽学部長、
高階秀爾委員、中村胤夫委員、根本二郎委員、
末永壽男会計課長
監事：竹内雄也監事
欠席者 石田義雄委員、海老澤 敏委員、佐々木正峰委員

議題

1. 平成20年度国立大学法人東京芸術大学年度計画(案)について
議長から標記のことについて提案があり、総務課参事役から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
2. 平成20年度予算(案)について
議長から標記のことについて提案があり、会計課長から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
3. 東京芸術大学事務等非常勤職員就業規則の一部を改正する規則(案)について
議長から標記のことについて提案があり、総務課長から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
4. 東京芸術大学職員期末手当、勤勉手当及び期末特別手当支給細則の一部を改正する細則(案)について
議長から標記のことについて提案があり、総務課長から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
5. その他
総務課参事役から、東京芸術大学出版会刊行の書籍「森鷗外と原田直次郎(新関公子)」及びDVD「新曲『浦島』」について紹介があった。
年度計画(案)に関連し、外部委員から以下の意見があった。
(主な意見)
 - ・現代社会は激動の時代を迎え、IT革命等により人間性が疎外されることが世界的に広がってきており、この時代に芸大がどう人間性の回復にチャレンジするかは、伝統の継承と新しい芸術表現を創造する観点から、本学のテーマとして重要である。
 - ・新しい創作等に目を取られがちだが、伝統を継承することは大切なことである。
 - ・中国、韓国等、国内外の芸術系機関等との連携・交流プロジェクトに関連するが、今年の11月、アジア美術館長会議が日本で開催され、来日する館長の多くが日本に留学して美術を学んだ者である。アジアにおける美術史を見直すことが求められており、アジアの熱いまなざしを受けとめて、芸大としても、人物交流や共同研究プロジェクトなど何らかの関わりを持つ必要があると思われるので、情報提供したい。
 - ・経済発展のめざましいインドとの国際交流は経済交流ばかりであるため、今後は文化交

流も必要である。

報告及び連絡事項

1．東京藝術大学創立120周年記念事業募金の受入状況について
事務局専門員から、資料及び別添資料に基づき報告があった。

2．その他

堀江理事から、業務の効率化・合理化に向けた事務局組織の見直しについて、学生課と入試・学務課の統合、参事役の不補充等、組織見直しの進捗状況について報告があった。

議長から、川井音楽学部長が今月末で学部長を退任し、経営協議会委員も交代する旨の紹介があった。